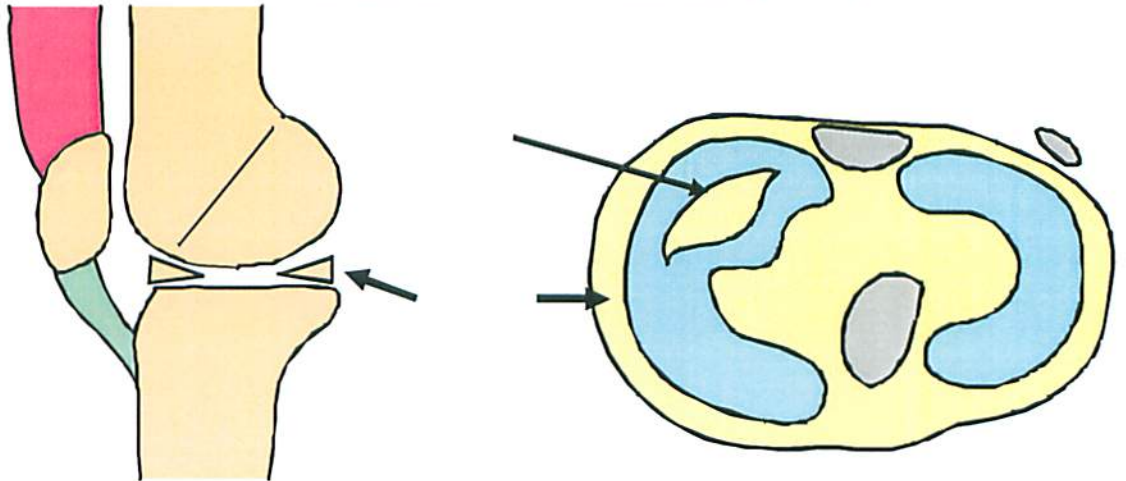


## 半月板切除術(縫合術)をうける患者さんへ

### 半月板とは

大腿骨と脛骨の間にある軟骨に似た組織でクッションの働きをしています。



### 受傷原因

ストップ、ターン、ジャンプなどのスポーツ動作や立ち上がりなどで生じることがあります。また、外傷と関係なく加齢とともに変性してすり切れることもあります。外側の半月板はまれに生まれつき大きい場合があります(円板状半月)、この場合には外傷と関係なく切れることがあります。

### 症状

1. 膝の痛み 内側または外側の痛みを生じます。
2. 膝崩れ 半月板が動くときに、膝が外れる感じやひっかかる感じがすることがあります。
3. 運動制限 損傷した半月板がはさまり、膝の動きに制限を生じます。  
特に伸びにくくなることが多いです。
4. 関節の腫脹 水がたまることがあります。

### 診断

症状、レントゲン、MRI(断層写真)などから診断します。

中にはMRIでもはっきり診断がつかないこともあります。

## 治療

### 1, 外傷で断裂した場合

急性期には水を抜いたり(関節穿刺)、鎮痛剤や外用薬を用いたりします。断裂した部位が安定していれば、安静にすることによって癒合することがあります。しかし、半月板は血行に乏しい組織であるために、軽快しないようだと手術が必要となります。

### 2, 年齢とともに断裂した場合

半月板の断裂とともに軟骨も痛んでいる場合が多いので、軟骨を改善する作用のある薬剤(ヒアルロン酸)を注射したりします。軽快しない場合には手術を考慮します。しかし、若い人の半月板損傷と違い軟骨が痛んでいることが多いので、軽い痛みが残存することがあります。

### 3, 円板状半月

半月板が大きいために負担が大きくなり外傷なしに断裂します。半月板の厚みが大きいほど低年齢で発症します。様子を見て軽快する可能性は低くほとんどの場合手術が必要となります。

## 手術

手術には切除術と縫合術があります。半月板はクッションの働きをしているので、切除した場合には軟骨に負担がかかりやすくなります。そのため、半月板は出来るだけ温存することが理想ですが、断裂の形態により治癒が困難と判断した場合には切除が必要となります。年齢とともに断裂した場合や円板状半月の場合には縫合の適応となることはほとんどありません。

手術は鏡視下に行います。膝蓋骨の下方に7-8mmの皮切を2ヶ所加えます。

場合によって皮切を追加することがあります。

麻酔は基本的に全身麻酔または腰椎麻酔(下半身麻酔)です。

半月板を縫合する場合には内側または外側に2-3cmの切開を追加することがあります。

## 手術合併症

手術の合併症には以下のようなものがあります。

1. 麻酔に伴う合併症(血圧低下、頭痛など)
2. 肺塞栓などの全身合併症
3. 感染(抗生剤、洗浄などが必要になります)
4. 知覚障害(ふくらはぎの外側の感覚が鈍くなることがあります)
5. その他

## リハビリ

手術当日:ベッド上安静

翌日 :離床、松葉杖歩行

その後は痛みに応じて、可動域練習 歩行練習を行います。

歩行に問題がなければ退院となります。入院期間は通常数日です。

縫合した場合には、術後に固定や荷重制限が必要となるのでリハビリは遅くなります。

## 入院の費用について

(おおよその目安です。患者さんによって違います。)

一般

3割負担 10-15万円

横浜市立みなと赤十字病院整形外科

2007. 8. 28